

年末年始は家に安全を持ち帰ろう

2022年12月



図1. 祝日を世界中で祝っている

臘八会(ろうはちえ:仏教の行事)、ボクシングデー、クリスマス、ギター・ジャヤンティ(ヒンズー教の行事)、ハヌカ(ユダヤ教の行事)、クワンザ(アフリカ系アメリカ人の行事)、正月、大晦日などは、年末年始に祝っている多くの祝日のいくつかである。大抵、従業員は休暇を取って家族と一緒に過ごす。そこでは、家族や友人と贈り物の交換をするだろう。

祝日シーズンが近づくと、贈り物の購入、料理、掃除、飾り付けなどの準備で大忙しになる。休暇の興奮で、私たちの家族や友人、家の安全が奪われないようにすることが重要である。

祝日には

住宅火災のリスクが

増える

楽しい我が家が

こんなことに

ならないようにしよう



知っていますか

- 全米防火協会(NFPA)の報告によると、毎年770件以上の住宅火災が祝日の装飾が原因で発生している。
- 家にあるクリスマスツリーの火災のほぼ半分は、電気配線や照明器具が関係していた。クリスマスツリーの火災の約20%は、装飾用のライトが火元であった。

(参照 <https://www.nfpa.org/Public-Education/Fire-causes-and-risks/Seasonal-fire-causes/Winter-holidays>)

- 多くの祝日の慣習ではキャンドルが必要である。そのキャンドル火災は12月と1月にピークに達し、それらは年間のキャンドル火災の11%ずつを占める。
- いくつかの祝日の慣習では、その時だけに使用される特別な装飾品がある。それらの装飾品の状態は保管中に劣化することがある。
- 装飾の取付けでは延長コードやたこ足配線となる場合がある。余分なコードは発熱や躓きの危険となりうる。
- 花火はまた、いくつかの祝日の行事の一部である。それらに細心の注意を払うこと。それらは非常に危険である。

あなたにできること

- 屋内や屋外での使用に適した照明器具を使用すること。
- 祝日の装飾に使用されるすべての配線を検査し、一つの電源にあまり多くのものを接続しないこと。擦り切れたり切れかかったコード、電球の接続が緩いソケットが付いた装飾品は交換すること。
- 装飾やシンボルとしてキャンドルを使用するときは特別に注意すること。電池式キャンドルを使用すれば、着火源となる可能性はなくなる。
- 生きた木を使用したクリスマスツリーには毎日水をやること。冬季火災の4件に1件は、乾いた木を熱源に近づけ過ぎたために発生している。
- 部屋を出るときや就寝するときは、火のついたキャンドルを吹き消し、すべての照明器具や装飾品の電気を切ること。
- あなたや隣人が花火をするときは、火災が起きないように注意を払うこと。水道ホースや消火器を用意しておくこと。

安全こそが祝日の最高の贈り物だ。